

ジャガイモ10キロ 100円!?

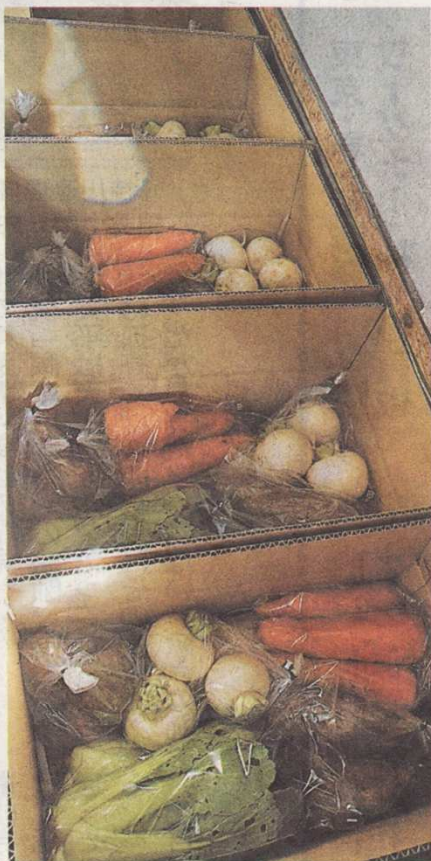


新米農家の里山ライフ

農家になろうと決心したとき、胸に抱いていたイメージは「自然を大切にする農家」。農薬や化学肥料に頼らず、旬の野菜を育てるんだと思いつき、ほかの農業のことはほとんど知りませんでした。それで東京からやって来て、妻とふたりで子ども3人を養うだって？ 里山の人は、あきれ返ったに違いありません。

行く先々で、知り合った農家や農協の人から諭されました。「なんべんも言うけど、つくりやすい旬の時期にはその野菜が市場にあふれる。安値で買い叩かれるやろ。それじゃあ暮らせんって」。納得いかない私が「でも野菜って旬の時期が一番おいしいんですよ」と言い返すと、「市場にない時期を狙って出荷するのが農業。家庭菜園じゃねえっちゃから」。こんなやりとりをするたびに、「まったくこれだから素人は困る」といじり目で見られました。

② ジャガイモ10キロ100円!?



旬の野菜たちを箱詰めして食卓へ

その年はジャガイモが大豊作。先輩農家が旬のジャガイモを10キロごとに段ボール箱に詰めて市場に持っていったところ、落札価格は1箱1000円でした。ジャガイモ10キロが100円! 「段ボール代だけで1箱500円したのに」と力なく笑う先輩の顔が、忘れられません。

これじゃあ農家は旬の野菜なんて育てられないぞ、と怒りたくなるほど安いこともしばしば。でもこれが市場原理というもの。賢い農家は生きていくために、品薄な時期を狙う。苦勞して栽培技術を磨き、夏野菜を冬に育てる。ハウスの中で暖房をたいて農薬をまくのも、生きていくためのなのです。

大豊作&大暴落を避けるために旬を外して栽培・出荷するのが、農家の基本。ん、ちよつと待てよ。でも大豊作で大暴落した野菜って、恵まれた環境ですくすく元気に育ったわけだから、一番おいしいんじゃないのか。賢い農家が増えれば、「旬外野菜」ばかりが売り場に増えていくってことか。いつの日か、おいしい旬野菜は「安すぎて手に入らない」なんて時がくるのか……。そう思ったひねくれ者の素人農家は、旬の野菜たちを直接食卓に届けて食べてもらおうと思ったのでした。

(專業農家) Ⅱ全13回



川上健 1970年生まれ。福岡出身。2008年に新聞記者を辞め、家族5人で東京から宮崎県綾町に移住。1年間の農業研修後、09年春に露地野菜農家として独立。